

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1970800221		
法人名	社会福祉法人 清長会		
事業所名	指定認知症高齢者グループホーム敷島荘		
所在地	甲斐市大久保1351		
自己評価作成日	平成24年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年11月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

併設施設(特養、デイサービス)があるので、合同の行事(お花見、運動会等)を行い、利用者や職員の交流を図っている。  
 また家族や地域住民を招いての納涼会や敬老会等を行い、開かれた施設を心掛けている。  
 食事は手作りにこだわり、利用者の嗜好に合ったものや季節の食材を取り入れるよう努力している。  
 笑顔、笑いの絶えない環境づくりを心掛け、個々の能力に合わせたケアを心掛けている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、南に富士山、西に南アルプスの山なみが連なり、眼下には甲府盆地が見渡せる高台に位置している。同一法人の敷地内に、介護老人福祉施設・デイサービスなどが併設されており、季節の行事などを合同で開催し、双方の利用者・職員が日常的に交流している。また、災害時にも互いに協力しあう体制が整っている。地域ボランティアが定期的に訪れ利用者と交流している。他に、利用者に寄り添って過ごすボランティアの受け入れもしており「開かれた事業所」としての姿勢を持って地域と関わりを広げている。全職員は、家庭的な雰囲気を大切に、相手の立場に立った支援を心がけており、笑顔と自然な会話の中で利用者はゆったりと、安定した日々を送っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 指定認知症高齢者グループホーム敷島荘 [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関など目につく場所に理念をかかげ、職員一人ひとりが理念に沿ったケア、取り組みが行えるよう心掛けている。	事業所独自の理念を目に付く所(数か所)に掲示している。職員は理念を常に意識して日々のケアに活かしている。家庭的な雰囲気や、利用者の笑顔を大切にしながら、自然に接するよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、清掃活動を行うことで地域の一員として社会参加している。また施設の行事には地域の方々に声をかけ参加して頂いている。	「開かれた事業所」であるべきと言う考えに立ち、多様なボランティアを受け入れたり、地域の人をホームの行事へ招待している。地域のお祭り、納涼会にも積極的に参加して、地域との交流に努めている。自治会への加入はしていないが、地域清掃を自発的に行うなどの努力もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	基本理念にある“高齢者の幸福のためのサービス提供と地域社会への貢献”を常に念頭に置き、日々取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、日々の利用者の様子や利用状況などを報告することでグループホームでの生活の様子を理解して頂いている。また会議の中でいろいろなご意見を頂き、グループホームのサービスや運営の向上に努めている。	2か月に1回開催される運営推進会議は、事業所から状況報告に対して活発な意見が出され、内容は転倒防止・感染予防、防災対策など多岐にわたっている。外部評価結果への取り組みについても報告し、話し合いがなされ問題の改善に繋がった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は市の各種委員会の委員を引き受けたりし、情報交換を行っている。また市主催の交流会や研修会に参加し、情報共有や情報交換の場としている。	市担当者が運営推進会議に参加できない時は議事録を送り、事業所の実情を知ってもらえるよう努力している。市主催の保健福祉推進協議会、グループホーム情報交換会、研修などに積極的に参加して関わりを持ち、情報を共有している。事業所の問題を相談したり、市から問い合わせがあったり、良好な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では“脱身体拘束宣言”を掲げており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。また委員会や研修で身体拘束について考え、検討し、理解を深めている。	身体拘束について、法人内の事故防止委員会や研修会で、学習している。職員は正しく理解しており、言葉遣いや利用者の行動を抑圧することがないよう細心の注意を払っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や研修で虐待について考え、検討し、理解を深めている。また利用者の状態観察をしっかり行い、虐待の早期発見に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を利用している方もいるので、職員はこれについて学び、理解を深めている。また必要であればこれらを活用できるよう支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には利用者や家族と十分な話し合いを行い、疑問点や不安なことについてはしっかりと対応し、理解、納得に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談申し出窓口設置の案内を掲示し、周知している。また苦情箱も設置し、いつでも意見できる環境を整備している。オンブズマン制度も利用し、利用者の声が反映できるようにしている。利用者の家族による家族会もあり、定期的に会合を開催し、意見交換ができる場を設け、様々な意見を頂いている。	家族会を年2回開催している。家族には、電話の際や面会時・行事などで顔を合わす機会に、問いかけたり、何でも言ってもらえる雰囲気作りにも留意している。出された意見・要望は検討して反映している。月1回、ホームでの職員の支援の状況を見て、外部からの意見を聞く機会も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を行い、その中で意見や提案を出してもらい検討、反映させている。また意見や提案の出しやすい環境作りにも努めている。	月1回の職員会議、年2回の個別面談があり、職員の意見・要望を聞いている。日ごろからコミュニケーションを図り、意見や要望の出しやすいよう心がけている。職員からは備品、ケアに関する要望・提案が数多く出され、それをサービスに反映している。ホームだけでは処理できないものは法人の運営会議で検討される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、各職員の意見や考えを伝える場を設けている。その際自分の思いを伝え、できるだけ尊重できるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年新任、現任研修を開催し、職員の質の向上に努めている。また法人内外の研修にも積極的に参加し、より良いケアにつながるよう努力している。資格取得についても進んで取得できる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに参加し、意見、情報交換を行っている。また山梨県グループホーム協会にも入会し、役員を引き受け、ネットワークを広げサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意見の言いやすい環境づくりを心掛け、できるだけ多くの情報を収集する努力をしている。またちょっとした仕草にも注意を払い、その中からも情報を得られるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に細かなところまで情報収集し、よいケアにつながるよう努めている。また信頼関係が早く築けるよう積極的に関わる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、関係者でよく話し合いを行い、本人に一番適している支援が提供できるよう努めている。また併設施設も備えている特性を活かした対応もできるので、それらも含め最後までしっかり対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になって考え、それぞれのペースに合わせた支援を行うよう心掛けている。またできるだけ多く触れ合う時間を設け、信頼関係を築けるよう努力している。共に暮らす家族だと思い日々生活している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに積極的に声をかけ、情報交換を行い、信頼関係を築いていく努力をしている。またその中で意見、要望をくみ取り、ケアに反映していきけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける環境を提供し、できる限り希望する場所へ行けるよう支援している。時に電話があった際には本人と代わって話をして頂いている。	入居時に、本人が培った人間関係や馴染みの場所を聞き取っている。その後は居室担当の職員が暮らしの中からの把握している。隣接のデイサービスから友人が来訪したり、外出・買い物・お墓参りなど、個別で支援している。家族からの電話にも、利用者自身の声を聞いてもらい、家族関係の継続についても配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので利用者同士の関係をしっかり把握し、時には職員が間に入り、皆が穏やかに過ごせる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移られるケースも多く、利用者や家族とも顔を合わす機会があり、これまでの関係性を維持している。退所する場合はその後の支援についてもしっかり話し合いを行い、最後までしっかりフォローするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけコミュニケーション、スキンシップを図り、その中より一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握する努力をしている。またその希望や意向に沿ったケアプランを作成するよう心掛けている。	意思疎通が困難な利用者はいないが、言葉にしにくい思いを汲み取る努力をしている。日々の暮らしの中での、ちょっとした動きや会話を敏感に感じ取り、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネよりできる限りの情報収集を行い、生活歴や趣味などの把握に努めている。また日々の会話の中からも情報を仕入れ、日々の生活の中で活かせるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中より個々の有する力を把握し、一人ひとりに合った支援を行っている。また個々の生活ベースを大切にしながらも共同生活が行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえケアプランに盛り込んでいる。また関係職員からの情報なども常に収集し、ケアプランに反映できるよう努めている。モニタリングも3ヶ月ごとに行っており、現状把握に努めている。	半年に1度介護計画を作成し、モニタリングを3か月毎に持っている。本人・家族の意向・職員の意見を反映した介護計画を作成している。ケアマネジャーも、介護の現場に立っているため、より細やかに本人本意の介護計画を作成が可能となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づきなどは毎日個人ケースに記入し、職員間の情報共有に努めている。検討内容があれば職員会議の中で検討し、統一したケアが行えるよう努めている。また連絡帳を活用し、職員間の情報共有、周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅の認知症の方の家族の介護負担を軽減するために共用型デイサービス(定員3名)、空床利用型ショートステイ(定員1名)が利用できる体制を整えている。また併設施設があるため連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアが来荘され、楽しいひと時を過ごしている。ボランティアも少しずつ増えてきており、いろいろなことを楽しめるようになってきている。また、地域の夏祭りにも毎年参加し、地域の一員として考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で今までのかかりつけ医か施設の嘱託医かを選択している。どちらにしても情報共有がしっかりとできるよう努めている。	事業所の嘱託医がかかりつけ医の利用者はホームで往診を受け、入居前からのかかりつけ医での受診の利用者は家族が対応している。本人の身体の変化や受診結果の情報は、共有している。歯科は介護老人福祉施設の往診医での診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで状態確認を行い、利用者の変化に気付くよう状態観察を行っている。変化があった時には併設施設の看護師に協力を依頼し、適切な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、情報収集に努めている。また家族や病院に定期的に連絡し、情報交換を行い、よい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族等との話し合いの場を設け、できる限り家族の負担が大きくなるよう法人全体で支援するよう努めている。	事業所の運営方針として、重度化や終末期の人を対象としていないが、利用者・家族が安心してサービスを利用できるよう入居時から話し合い、方針を統一している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には併設施設の看護師に協力頂き、連携、対応している。また全職員が救命救急法の受講しており、利用者の急変時の対応に備えている。急変時の職員の連携体制も確認ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をしており、防災時の対応に備えている。また夜間を想定した訓練も行っており、地域の方々にも協力を呼びかけている。	法人全体で、年10回の災害避難訓練を行なっている。その内2回は、夜間を想定して、実際にシミュレーションした動きを訓練している。火災時・地震時のマニュアルも掲示され、防災頭巾、緊急通報装置・スプリンクラー・非常用食料など備えている。法人施設は市の災害時高齢者避難所にもなっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気の中でも、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや対応に注意している。	事業所理念の中にも「言葉遣い」について挙げてあり、利用者一人ひとりに敬意を払った言葉遣いを職員は心がけている。書類は事務室に保管され、居室のプライバシーについても、ドアの明かり窓からの視線を遮るために暖簾をかけるなど配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いをいつでも自由に言うことができる雰囲気作りを心掛けている。また利用者の自己決定ができるような声かけも心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるよう努めている。またユニットの中でもいくつかのグループに分け、その人に合った対応、支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回施設にカットに来て頂き、身だしなみを整えている。入浴時には利用者とともに服を選びおしゃれを楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時や年1回嗜好調査を行い、利用者の好みの物を取り入れるよう心掛けている。また日々の会話の中にも注意して情報収集する努力もしている。食事の準備や片付けもできることは一緒に行うよう心掛けている。月に1回バイキングがあり、いつもと異なる場所で違った雰囲気の中で食事を楽しんで頂いている。	利用者の希望を踏まえたメニューを職員が工夫して考え、法人の管理栄養士が指導・アドバイスしている。利用者の持てる力を活かし、調理の下ごしらえ・配膳・後片付けを職員と一緒にいき、手作りの食事を職員と共に食べている。おやつ作りや、介護老人福祉施設でのバイキング、外食など様々な取り組みをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の指導の下、職員が献立を作成している。手作りにこだわり、季節の食材を取り入れたりしている。摂取量の確認や声かけを行い、1日トータルに必要な摂取量が確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後のうがいを徹底している。歯磨きも声かけにて行い、できない部分は介助している。また週1回入れ歯洗浄剤にて洗浄を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している方は維持していけるよう支援をしている。トイレの訴えがあればその都度トイレ誘導を行っている方や定時のトイレ誘導を行っている方もいるが、利用者の行動や様子をしっかりと観察し、排泄パターンの把握に努めている。	利用者全員がトイレでの排泄ができており、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別の支援を行っている。トイレ誘導が必要な利用者に対しては、さりげない声かけを行い、身体の状態に合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと取るよう声かけ、ヨーグルトやヤクルトなどの乳製品を取り入れ、適度な運動も行うことで排泄を促している。排便チェックで排便の確認をすることで便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～金が入浴日になっており、その日の状態や様子でいつでも、誰でも入浴できるよう対応している。また安全に配慮し、個々のペースで入浴を楽しんで頂いている。	利用者一人ひとりの意向に沿って、ゆったりとした気分で入浴できるよう取り組んでいる。利用者と職員がより密接なコミュニケーションが取れる時間となっている。入浴を嫌がる利用者には、時間をおいて勧めたり、職員が変わって声を掛けるなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休憩をとって頂いたり、休憩をとらない方はホールで過ごしていただいたり個々の生活習慣に合わせ快適に過ごして頂けるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴り、いつでも職員が確認できるようにしている。薬の変更があった時には随時連絡帳を活用し、全職員に周知している。薬は命に関わるものなのでしっかり確認し、確実に服用できるよう支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や家族などからの情報を参考に、できること、好きなことを行える環境を提供している。調理、清掃、洗濯たたみなど日々の生活の中の役割、習字、華道、工作など楽しみごとを行うことで充実した日々が送れるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭を散歩したり、買い物に同行したりと日常的に外出できる機会を設けている。また季節ごとのイベントを計画し、外出することで季節感を感じて頂いている。	午睡を済ませた時間帯に職員と一緒にホームの敷地内を散歩したり、玄関脇に設えたベンチでおしゃべりを楽しんでいる。買い物や、自宅へ戻るなど個別での外出支援をしたり、金冠日食、花火など希望する利用者を楽しんだ。また、利用者家族に呼びかけて一日行楽を計画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に好きなものを買ったり、食べたりと買い物を楽しんでいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などとの電話や手紙のやり取りの支援を行っている。電話の取りつぎや手紙の返事など職員が協力し、関係を断たないよう心掛けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは、利用者の憩いの場となっている。テレビを見たり、会話を楽しんだり、レクリエーションを行ったりなどそれぞれ心地よく過ごされている。またテーブル、ソファー、畳と自由に活用している。ホールの見るところに利用者の作品を飾り、さらなる意欲につながるよう努めている。	採光に考慮されたホールは、デイサービスと共有で使用されており十分なスペースと明るさが確保されている。壁には、利用者が指導している習字の作品が個人毎に貼られてあったり、皆が共同制作した季節の大型の貼り絵が飾られている。台所とホールはワンフロアなので、調理する様子、におい、音などが利用者へ届き、手作りの料理をより一層楽しめている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファー、畳があるのでそれぞれ思い思いに活用し、過ごされている。時には利用者の居室に入り、会話を楽しんでいる姿も見受けられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で愛用していた愛着のあるものなどを持ち込んで頂き、できるだけ以前と変わらない環境の下で居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	利用者が居心地良く、プライバシーを大切にできるよう配慮されており、その人らしさを大切にしている。仏壇や使い慣れた家具に囲まれた居室もあり、持ち物が少なく、すっきりした居室もあり個性を活かした設えがしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールを中心に居室、トイレ、浴室などが配置されており、利用者一人ひとりが安心、安全に生活が送れるようになっている。			